

# 経済教室

伊藤 元重 学習院大学教授

## ポイント

人・モノ・カネの国際化の一括議論避けよ  
貿易自由化の動き強まるほど反発大きく  
歴史的に保護主義は好ましい結果導かず



いとう・もとしげ 51年生まれ。ロチェスター大博士。専門は国際経済学。東大名誉教授

「自分たちは外国に労働力を求めた。しかしやってきたのは人間だった。これはスイスの作家が外国人労働の影響についてコメントしたものだ。生産要素としての労働力だけを考えれば海外から安価な労働力を求めることは合理的にみえるが、そこには家族、宗教、文化、犯罪など様々な人間的要素が関わってきて、難しい問題が多く生まれる。」

## 自由貿易の意義④ 通商交渉の継続が道開く

様々な論点が関わってくる。一方で環太平洋経済連携協定（TPP）などの経済連携協定（EPA）の是非が論じられる時には、人・モノ・カネなどの国際化が一括で議論されることが多い。本来はモノの国際化である貿易自由化が議論の中心であるはずのEPAも「グローバル化」に賛成か反対かというアバウトな

議論に巻き込まれてしまう。冷静な議論をするには「グローバル化」というマジックワードを振り回すのでなく、「貿易自由化」「金融の国際化」は当時の保護主義である重商主義への批判の書として書か

## 国際化、人・モノ・カネ区別を

貿易は自由化した方が規制するよりはるかに好ましい。学問的な流れからは、そう結論が出ていくといつてよい。

「人」の移動など、それぞれの問題について正確な議論をする必要がある。TPPなどのEPAについては間違いない、最も重要な部分は貿易自由化に関わる問題だ。

「人」の移動など、それぞれの問題について正確な議論をする必要がある。TPPなどのEPAについては間違いない、最も重要な部分は貿易自由化に関わる問題だ。

「モノ」やフリードリヒ・リスによる幼稚産業保護の理論も、部分的には正当性がある。自由貿易論を覆すような力とはならなかった。

1980年代の貿易摩擦を背景に出た戦略的貿易政策論も、貿易自由化の正当性を覆す力とはならなかった。

グローバル化の流れが強くなるほど「グローバル化に反対する」という錫の御旗に多くの人が集まりやすくなる。

貿易自由化論と保護貿易論は光と影、あるいは作用と反作用の関係にある。貿易自由化の動きを強めようとするれば、それに反対する声も大きくなる。人間には現状維持を好み、新しい動きを警戒する傾向がある。

保護主義を抑え込んで、貿易自由化をどのように進めていくのか。残念ながら、奇策も魔法もない。正攻法で貿易自由化を進める努力を続けていくしかない。ある政治学者が「通商交渉は自転車こぎのようなものだ」と言っていた。こぎのこをやめてしまえば倒れてしまうという意味だ。

### 貿易自由化がもたらすメリット

- 石油や鉄鉱石など、国内で調達できないものを確保する
- 途上国が貧困から抜け出すには貿易の力が必要
- 比較優位により生産を効率化できる
- 規模の経済性を生かすには海外に輸出する必要がある
- 資本財などの輸入は技術波及効果を持つ
- 輸入品との競争で産業界の新陳代謝が高まる（メリット効果）
- 輸入品を拡大することで安価な商品を購入でき、消費者利益となる
- 国際的な分業を活用することで経済成長率を高められる
- 国際競争の圧力で国内の独占や寡占をけん制できる

貿易自由化論と保護貿易論は光と影、あるいは作用と反作用の関係にある。貿易自由化の動きを強めようとするれば、それに反対する声も大きくなる。人間には現状維持を好み、新しい動きを警戒する傾向がある。

貿易自由化論と保護貿易論は光と影、あるいは作用と反作用の関係にある。貿易自由化の動きを強めようとするれば、それに反対する声も大きくなる。人間には現状維持を好み、新しい動きを警戒する傾向がある。

貿易自由化論と保護貿易論は光と影、あるいは作用と反作用の関係にある。貿易自由化の動きを強めようとするれば、それに反対する声も大きくなる。人間には現状維持を好み、新しい動きを警戒する傾向がある。

貿易自由化論と保護貿易論は光と影、あるいは作用と反作用の関係にある。貿易自由化の動きを強めようとするれば、それに反対する声も大きくなる。人間には現状維持を好み、新しい動きを警戒する傾向がある。

\*この記事・写真は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。